

2017年度 センター試験 化学（本試験） 分析

全体概況

試験時間 60分

大問数・解答数	大問数：6題	解答数：35問
難易度の変化（対昨年）	○ 難化 ○ やや難化 ● 変化なし ○ やや易化 ○ 易化	
問題の分量（対昨年）	○ 増加 ● 変化なし ○ 減少	
出題分野の変化	○ あり ● なし	
出題形式の変化	● あり ○ なし	
新傾向の問題	○ あり ● なし	
<p>総評 解答数が増えたが、難易度や分量は昨年とほぼ同じであった。計算問題が昨年より1問増加したが、複雑な計算はやや減少した。選択問題や正誤問題は昨年と同様の難易度であったので、全体として難易度はあまり変化していないと思われる。出題形式に関しては、以前よく出題されていた正誤組み合わせ問題が1問出題された。高分子に関する問題は昨年同様、必答問題および選択問題として出題されたが、全体として配点が3点減少し、第1問から第3問にそれぞれ1点ずつ振り分けられた。</p>		

大問別分析

大問	出題分野・テーマ	配点	コメント
第1問	結晶、電子配置 気体の熱運動 物質の三態、飽和蒸気圧 凝固点降下	24点	全体的に基本～標準的な問題であった。問3の図は、センター試験では出題されることがないが、教科書には必ず掲載されている図で特に難しくない。計算問題も標準的なものであった。
第2問	ヘスの法則、化学平衡 反応速度の計算 緩衝溶液、電気分解 酸化還元反応の計算	24点	問6の計算がやや複雑でミスしやすいが、その他の問題は標準的であった。ただし、問1では求めるもの、問3では溶液の体積に注意しないとミスする可能性がある。問4で以前出題されていた正誤組み合わせ問題が出題された。
第3問	身近な無機物質の性質 触媒反応に関する正誤 気体の反応と性質 黄銅中の銅の含有量 塩素の生成量の計算 金属のイオン化傾向	24点	問1と問2の選択枝の一部に多くの受験生が知らないであろう知識が含まれているが、正解がすぐわかる問題なので解く上では特に苦労はなかったと思う。問6では、電流の流れる向きと電子の流れる向きを取り違えなければ、特に難しくない。
第4問	炭化水素の性質 エステルとアルコールの 構造異性体 芳香族化合物の反応 分子式の決定 界面活性剤	19点	問4の計算が難しく、どのようにして正解を導き出すかが分かりにくかったと思われる。問5の界面活性剤に関する実験は、どのような反応や現象かがわからないと正解にたどり着けない。その他の問題は標準的な問題で、特に問3は基本的であった。
第5問	高分子の合成 高分子の構造と性質	4点	問1の問題の意味がやや分かりにくかったと思われる。問2は高分子に関する標準的な問題である。
第6問 選択	合成高分子の単量体 ポリ乳酸の燃焼	5点	問1は合成高分子の単量体に関する標準的な問題であり、問2はポリ乳酸の燃焼に関する標準的な計算問題である。
第7問 選択	ジペプチドの電気泳動 糖類の反応と計算	5点	問1はアミノ基とカルボキシ基の数の違いがわかれば容易に解答できる。問2は糖に関する標準的な計算問題である。